銅版画家

浜口陽三

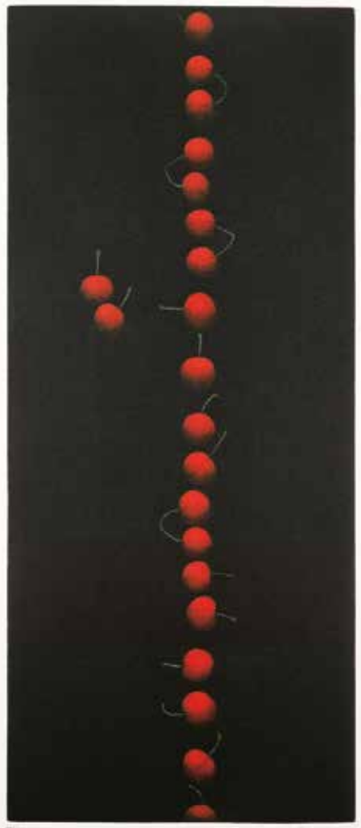
やわらかな闇の中で

佐野美術館創立50周年
三島市制75周年 記念

2016
4.23 Sat — 6.5 Sun

〜担当学芸員・志田理子さんが語る「浜口陽三」展の見所〜

平成28年春、佐野美術館では
「銅版画家・浜口陽三」展を開催します。
浜口陽三（1909-2000）は戦前・戦後と海外を拠点に活躍した
20世紀を代表する版画家です。
独自の銅版画技法であるカラーメゾチントを
完成させたことで知られています。
本展では「22のさくらんぼ」や「さくらんぼと青い鉢」など
代表作を含む約70点を紹介します。



《22のさくらんぼ》カラーメゾチント　1988年
武蔵野市立吉祥寺美術館蔵

浜口陽三について教えてください。

志田　一九〇九年にヤマサ醤油株式会社の三男として和歌山県に生まれました。東京美術学校（現東京藝術大学）で彫刻を学び、中退後は渡仏し油彩・版画など幅広い創作活動を行っていたようです。銅版画の一種であるメゾチントは主に複製用の技術として用いられてきたため、写真の登場で存在意義が薄らいできていたのですが、浜口はメゾチント独自の魅力を活かし、カラーメゾチントの完成者として世界的に高い評価を受けました。

どのような人物だったのですか？

志田　人懐こい飾らない人柄だったと言います。いわゆる自分の芸術信条を熱く語るようなタイプではなく、飄々とした性格だったようです。「戦後間もなく日本にチーズが普及していなかった頃に自分でチーズを作るような食通で、ハイカラな人だった。俳優のように格好良かった。」と当時の浜口を知る方から伺いました。

伊豆にゆかりがあると聞きましたが？

志田　浜口は大戦中に東南アジアでマラリアに感染し、療養のため伊豆下田の蓮台寺温泉に逗留します。2年程の滞在でしたが、地元の芸術家たちと親しくなりスケッチに出掛けたり芸術談義に花を咲かせたりと、下田は浜口にとって思い出の地となります。渡仏後も帰国した際には、エスカルゴやフォアグラの缶詰をお土産に下田を訪れるなど、親しい交流が続きました。

浜口の作品は幻想的で一度見たら忘れられないような存在感がありますね。

志田　どれも身近なモチーフと簡潔な構図ですが、独特の空気感があって観る者の想像力で世界が広がっていくような奥深さがあると思います。一見真っ黒な背景はよく見ると複数の色が混じり合い色調に変化があります。メゾチント技法による繊細な明暗の諧調が、この静かでやわらかな闇を創り出しています。

展覧会をどのように楽しむことができますか？

志田　本展では、近年生家より発見された小学校時代のスケッチや若き日に描いた油彩画など、版画以外の作品も見所の一つです。また、浜口と伊豆の人々との交流についてもご紹介できればと思っております。

（構成：ミュージクラブ事務局　遠藤）

浜口陽三

ミュージクラブ会員　募集中

ミュージクラブでは、随時会員を募集しています。
特典として、年間パスポート発行はもちろん、
アートに親しめる美術館ならではのイベントを多数開催しております。
お気軽に事務局（TEL055-975-7278）まで
お問合せください。

新規入会者（平成27年9月1日〜）

正　会　員　秋鹿まり子、石井元子、宇津木侑子、遠上文夫、菊地悦子、吉川善典、柴田恒彦、生野直輝、須藤あい、曽我一枝、髙柳沙央、田中和子、綱島富士正、常葉一雄、西川僚介、松浦直子、宮西達也、八木和男、山田敏博、山本佳代、渡邊絹子

ゴールド会員　内笹井明、後藤正治、原島法律事務所、山田憲市　※敬称略、50音順

Number 17 2016.03

佐野美術館賛助会ミュージクラブ会報 ミューズ交歓
2016年3月号／第17号
発　行　日／平成28年3月30日　編集・発行／佐野美術館賛助会ミュージクラブ
〒411-0838　静岡県三島市中田町1-43　TEL:055-975-7278　FAX:055-973-1790　ホームページ:http://www.sanobi.or.jp

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報

ミューズ交歓

佐野美術館と皆さまをつなぐ

Number 17 2016.03
Muse Club Magazine
SANO ART MUSEUM

EVENT
イベント
スケジュール
平成28年度

平成28年度 活動予定

イベントスケジュール

EVENT
イベント
情報

平成28年度に開催されるイベントをご紹介します。皆さまのご参加をお待ちしております。

会員のつどい（総会）

日　時：平成28年4月29日（金・祝）
15:00〜18:00
会　費：1,500円（会員）
定　員：50名（要申込・先着順）
会　場：佐野美術館講堂
出　演：柳家小太郎（落語家）

新年度の総会として、昨年度の事業報告と新年度の事業計画を発表いたします。報告会の後は、余興として落語や懇親会を開催します。落語家の柳家小太郎さんは、神奈川県厚木市出身の37才。2005年に柳家さん喬師匠に弟子入りし、2009年二ツ目に昇進しました。

芸術鑑賞 日帰りバス旅行

日　時：平成28年5月12日（木）
7:00〜19:00
会　費：会員 10,000円
一般 15,000円
定　員：49名（要申込・先着順）

国立劇場での観劇をメインとした恒例の芸術鑑賞旅行。今年は午前中に根津美術館で国宝・燕子花図屏風展を見学し、午後は世界文化遺産にも登録された伝統芸能「人形浄瑠璃文楽」を鑑賞します。初めての方にも親しみやすい演目を、出演者による解説を交えながら上演します。

第11回ミューズクラブ ゴルフ大会

日　時：平成28年9月9日（金）
8:00〜16:00
会　費：会員 3,000円
一般 5,000円
プレー代：8,000円（昼食代別）
定　員：24名（4名×6組）

佐野美術館創設者・佐野隆一翁ゆかりのゴルフ場、芦の湖カントリークラブで開催する会員親睦ゴルフ大会。初秋の風さわやかな芦ノ湖や富士山を望むロケーションでラウンドをお楽しみください。参加者には全員、美術館ならではの賞品をご用意しています。

十三夜の宴（庭園コンサート）

日　時：平成28年10月13日（木）
17:00〜20:00
会　費：会員 3,000円
一般 5,000円
定　員：約100名（要申込・先着順）
会　場：佐野美術館庭園
出　演：宮野寛子（予定）

月と音楽を愉しむ演奏会「十三夜の宴」。今年の演奏者は富士市出身のジャズピアニスト、宮野寛子さんです。宮野さんは大学在学中にプロデビューし、ライブでは日常から着想を得たオリジナル楽曲で独自の世界観を表現しています。富士市のコミュニティFMではパーソナリティーを務めています。

歌舞伎座鑑賞 日帰りバス旅行

日　時：平成29年1月のいずれか1日
7:00〜20:00
会　費：会員 30,000円
一般 35,000円
定　員：49名（要申込・先着順）
演　目：未定（昼の部、1等席、お弁当付）

平成26年度に続き2度目の開催となる歌舞伎座への鑑賞旅行です。豪華な役者陣による新春の華やかな舞台を1等席からご覧いただきます。お芝居以外にも歌舞伎座ギャラリーや屋上庭園、充実したショップやお食事処など、さまざまな見所があります。

館蔵品 特別鑑賞講座

日　時：平成28年度のいずれか1日
14:00〜16:00
会　費：1,000円（会員）
定　員：20名（要申込・先着順）
会　場：佐野美術館
作　品：収蔵品5点ほど

館蔵品特別鑑賞講座は、佐野美術館の収蔵品を会員の皆さまにじっくり堪能していただく講座です。作品を実際お手に取っていただきながら、学芸員の解説とともにご鑑賞いただきます。会員だからこそできる又とない特典です。

※各イベントの募集は開催日の約2ヶ月前から行います。
※会員の皆さまは随時お届けしておりますイベントチラシをご確認の上お申込み下さい。

平成27年度下半期 活動報告

イベントレポート

平成27年度下半期は、3つのイベントが開催されました。

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報
ミューズ交歓
佐野美術館と皆さまをつなぐ

第10回ミューズクラブ ゴルフ大会

平成27年9月11日（金）
参加人数：22名

今年のゴルフ大会は、恒例の芦の湖カントリークラブで男性19名、女性3名の計22名での開催となりました。募集では32名を予定していましたが、昨年度のコンペがあいにくの台風に連続で祟られ、結局は中止に追い込まれてしまったことから、参加者に二の足を踏ませたことによるものと思われます。そうした経過があったにもかかわらず、当日は絶好のゴルフ日和で、くっきりとした富士山や眼下の駿河湾を眺めながら快適なプレーを楽しむことができました。ラウンド終了後は、クラブハウスで表彰式、懇親会を開催。入賞者には地元の作家による三嶋茶碗や、美術館ゆかりの品々が、また参加者全員に美術館ならではの景品が贈られました。なお優勝は高野哲夫さん、準優勝は綱島富士正さん、3位は植松英生さんでした。また芦の湖カントリークラブから提供された特別賞には、11位の当日賞として宮内完吾さんが受賞されました。皆さんおめでとうございました。

（ミューズクラブ副運営委員長　小野徹）

十三夜の宴（じゅうさんやのうたげ）

平成27年10月25日（日）
参加人数：125名

昨年の十三夜は近年で最も遅い10月25日でした。演奏は常葉一雄さん主宰の10人編成アンサンブル・レヴォリューションによる室内楽。久々のクラシックです。プログラムは300年前テムズ河での国王の舟遊びのために作曲されたG.F.ヘンデルの「水上の音楽」。時空を超えて佐野美術館庭園の池の畔で・・・翳りもなく冴え渡る月の輝きの中に身を置き、音楽に心を預け、演奏終了後はビュッフェスタイルの食事と樽酒で身を暖め、ミューズクラブの会員の皆さまとの交流を愉しむことのできた、何とも満たされた夕べでした。

（ミューズクラブ運営委員　花島雅子）

館蔵品 特別鑑賞講座 〜仏教絵画編〜

平成27年12月5日（土）
参加人数：14名

講師のお話しを聴き、時代を遡る仏画に接し、梵字の描き方、地蔵菩薩の光背の金線の描き方、蓮と菩薩の組み合わせ、等多くの事を学びました。更に頭髪による梵字の刺繍は、如何なる思想を持って収めたのか、大いに関心を持ちました。
己の慈悲心を奉じて、永久に見守って頂く心のおき場所を仏に委ねることを意味するように私は感じました。命とは、私の血液は父母から戴きました。その父母は祖父母から戴き、祖父母は曾祖父母から戴きました。この事を三十三代遡ると六十億人に辿り着きます。今生きている人達、全てが同様に繋がって流れています。この事から命の尊さを知りました。米寿を過ぎた私には、この講座を聞いて仏教の教えの一つを認識する事が出来ました。

（ミューズクラブ副運営委員長　宮内完吾）

MUSE 招待席　“佐野美術館と私”

今から30年も前の高校時代、美術部員であった自分にとって、美術館はそこそこ、大切な場所でした。鈍行に乗って上野まで行ったり、小田原から登山鉄道で強羅まで行ったりするのは贅沢な思い出で、普段の自分にはやはり、佐野美術館がありました。新しい展示が始まれば行き、東京まで行くことを思えばと、同じ展示に複数回行ったことも少なくありません。今は子どももでき、自動車と免許証もあります。箱根や伊豆の美術館、県立美術館など、家族で足を延ばすこともできます。ワークショップに参加もします。いろいろ巡らせていただいていますが今尚、佐野美術館で刀剣を目にする度に、甘酸っぱいのか?、苦しいのか?、楽しいのか?、独特な想いが上がってきます。大学進学時に美術大の選択肢を、真剣に悩んでいたことも、ここに来ると思い出します。好きだった女の子や、家族のこと、悩んでいたことも。多分、大切な場所です。子どもにもそうなって欲しいな、と願います。

三島市議会議員／正会員
中村 仁